



学校教育目標 大和田小の子は「かしこく やさしく がんばる子」

**お** 大きな夢 **お** 思いやりの心 **わ** わかる喜び **だ** 大好きな友 大和田小

## 「自分で決められない」

校長 坂口 智

自分の意思で物事を決められない人がいます。誰かに「こうしなさい」って言ってもらえないと、決断も行動もできなくなってしまう人もいます。何でそうになってしまうのか。自分で決めない、つまり、決断を人にゆだねることは、実はすごく楽な方法なのだと思います。なぜなら、行為に対する結果に、自分が責任を負わなくて済むからでしょう。多くの人が、「責任を負いたくない」という意識をもっていると思います。すごく重く感じてしまう、「責任」という言葉。大人もそう感じるのですから、子供はなおさらです。みんな責任を負いたくない。自分のせいになってしまうのはやっぱり嫌だから。どうしたらいいのか考えてみたいと思います。

### ◇その優しさが成長する機会を奪う

親（大人）は経験している分、予測がつかず、どうしても失敗しないためにアドバイスしてしまう。「失敗は成功のもと」という言葉があるのに。嫌な経験（失敗）を「悪いこと」と捉えていないでしょうか。今後気を付ける「きっかけ」と考えられないでしょうか。この先、ずっと子供と一緒にいるわけではありません。独り立ちしていくことを念頭に、見守って行ってほしいと思います。本当に行き詰ったところ（もしくは一歩手前）で、手を差し伸べる。大人が少し我慢してみませんか。

### ◇アドバイスしても決定は本人に！

失敗しないように準備をする。子供たちは「どうせ無理だ」「絶対にうまくいかない」と考えてしまうと、前に進んではいけません。そこで、「失敗するんじゃないか」と思ったら、「失敗しないように準備しよう」「どん

なことをしたらいいか」を考えるようにしよう、いくつかのアドバイスをしていきます。その中でやってみようと思うものを選択させます。準備することで失敗する可能性を低くできますし、たとえ失敗しても、また次の準備がしやすくなります。その積み重ねで、子供たちに力をつけていきたいです。

### ◇コンプレックスを抱かせないために

苦手なものがあっても、ほかのことで優位性を感じることができれば、苦手なコンプレックスに発展していくことはないと考えます。つまり、コンプレックスを作っているのは、苦手なこと、できないこと、人より劣ることを気にしすぎる自分自身の心のあり方にあると思います。悪いところにどうしても目が行きがちですが、いいところを伸ばして、悪いところが気にならなくなるように、我々教職員も心がけたいと思います。御家庭でも御協力をお願いします。

